

地域密着型サービス運営推進会議の記録

会議名称 : 第120回(通算回数)【令和8年度 第2回】運営推進会議
☒定例 ☐臨時 ☐その他()

事業者名 : 社会福祉法人ふくふく会

事業所名 : グループホームみやび

サービス種類：認知症対応型共同生活介護 介護予防認知症対応型共同生活介護

会議開催日時：令和8年7月27日（月）14時00分～15時00分

会議開催場所：みやび1階 介護者教室

《運営推進会議出席者》

構 成 区 分	職 種 等
羽曳野市地域包括支援センター	羽曳野市東圏域地域包括支援センター職員
地域住民代表	民生委員
有識者	元グループホーム管理者
利用者の家族	

《事業者出席者》

施設長
管理者
計画作成担当者

1. 入居者・短期利用者状況

・各階の利用者状況【定員 27 名】（6 月末日の状況）

	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計	平均	□性別 男性 3 名 女性 24 名 □年齢 73 歳～97 歳 平均 88 歳
2 階		4	1	2	2	0	9	2.2	
3 階		2	0	2	4	1	9	3.2	
4 階		1	2	3	3	0	9	2.9	
計		7	3	7	9	1	27	2.8	

・認知症高齢者の日常生活自立度

	～ I	Ⅱ a	Ⅱ b	Ⅲ a	Ⅲ b	Ⅳ	M	計	Ⅲ以上
2 階		1	1	3	1	1	2	9	7
3 階			1	2	2	3	1	9	8
4 階		1	1	2	3	2		9	7
計		2	3	7	6	6	3	27	22

・入居、退居状況

入居 5 月 24 日 82 歳 女性（2F）

・短期利用

なし

・入院状況

・ 5/27～5/31 82 歳女性（2F） 虚血性腸炎 ・ ・ 城山病院

2. 活動状況報告

・医療関係

【定期診療】
やすだ内科クリニック（2 回往診/月） 上野山歯科医院（1 回往診/月・1 回口腔ケア指導/月） 城山病院（1 回受診/3 ヶ月 こにし眼科（1 回受診/3 ヶ月） PL 病院（月 1 回受診）
【不定期診療】
5 月：やすだ内科クリニック（体調不良、熱発） 青山病院（右手水疱） はびきの医療センター（CT 撮影） 城山病院（腹痛、嘔気、下血） 木下整形外科（左膝偽痛風疑い）
6 月：やすだ内科クリニック（腹痛、精神的不安定） 城山病院（頭部 CT、退院後の経過観察） PL 病院（精神的不安定） 木下整形外科（腰痛） いりふね耳鼻科（中耳炎）

・行事等活動報告

【全体行事】
5 月 24 日：かふえみやび 地域住民 8 名参加
6 月 28 日：かふえみやび 地域住民 7 名参加
【ボランティア受け入れ】
5 月：傾聴ボランティア（楽花生）9 名
6 月：傾聴ボランティア（楽花生）15 名

【フロア行事】			
なごみ村	外出場所	食事	人数
5月18日	ふたかみパーク 當麻		2
5月フロア行事	かつお解体ショー		
6月5日	ふたかみパーク 當麻	おやつ	9
6月フロア行事	誕生日会		
しあわせ村	外出場所	食事	人数
5月20日	藤井寺イオン		2
5月26日	ららぽーと堺		2
5月フロア行事	誕生日会		
6月1日	羽曳野市内ドライブ		2
6月15日	ららぽーと堺		2
6月18日	ドンキ・ホーテ（富田林店）		2
ほのぼの村	外出場所	食事	人数
5月4日	葛城山麓公園		9
5月8日	道の駅近つ飛鳥の里・太子	おやつ	9
5月18日	二上パーク 當麻	おやつ	9
5月25日	道の駅かなん	おやつ	9
5月フロア行事	誕生日会		
6月6日	道の駅かなん	おやつ	9
6月17日	アリオ八尾	おやつ	6
6月22日	道の駅近つ飛鳥の里・太子	おやつ	6

・ひやりハット等 ※原因が特定されない痣、内出血、傷、表皮剥離等をボディーチェックとして報告

フロア	月	ひやりハット	エコ	急変報告	ボディーチェック
なごみ村	5月	28件	15件	1件	2人・6件（内1件剥離）
	6月	67件	7件	なし	なし
しあわせ村	5月	21件	5件	なし	なし
	6月	9件	6件	なし	2人・2件
ほのぼの村	5月	22件	7件	なし	2人・2件
	6月	22件	4件	なし	2人・2件

・事故報告

フロア	月 / 件	種 別	場 所	内容・対策など
なごみ村	5月 3件	転倒	居室	他者トイレ介助の後、本氏の居室ドアを開けるとドア前床に本氏長座位でおられるのを発見する。 ＜対策＞・一番暗い明るさの電気をつけておく ・居室扉を少し開けておく（可能な限り）
		転倒	トイレ	3番トイレより微かに扉をたたく音がするため、トイレのドアを開けると扉のすぐ前で扉側を向き体育座りをしている本氏を発見する。

				＜対策＞可能な限り、側についたり、こまめに様子を見に行く。
		転倒	トイレ	・本氏居室より出て来られたのでトイレ誘導した後、ソファで待つが、他者がおきてきたためそちらの介助中に３番トイレの扉の音がしたので急いでトイレに向かうも扉が開いた途端前かがみに転倒されるのを確認する。 ＜対策＞・可能な限り、側につきこまめに様子を見ていく。 ・出来る範囲で昼夜とも見守りしやすいよう２番トイレ使用促し、ごみ箱をドアの間に挟み少し扉を開ける手対応する。
	6月 2件	落葉	フロア	フロア掃除中、床に落ちている錠剤を発見する。 ＜対策＞咽られた時は、口腔内から錠剤が飛び出しているかもしれないと予想して、特に服や床などを確認する。
		転倒	廊下	コップが落ちる音と微かに小さな音が２０７号室辺りから聞こえ、見に行くと本氏が膝をついたような形で転倒しているのを発見する。 ＜対策＞本氏が歩いておられる時は、歩行介助の入居者を覗き、可能な限り、本氏を優先して付き添い行う。
しあわせ村	5月 1件	転落	居室	起床時前傾姿勢になり床に落ちられる。 ＜対策＞状態が悪い時は２人介助する。
	6月 2件	行方不明	エレベーター	スタッフ気付かない間にEV乗り込み降りられる。 ＜対策＞起床介助はなるべく早出者出勤後に行うようにする。本氏がフロアに居ても行動に注意する。
		誤薬	フロア	排泄の申し送りミスにより追加で薬を服用させてしまう。 ＜対策＞排泄時間からの情報だけでなく隣の日中特記の欄の排泄記録も申し送り時に確認する。
ほのぼの村	5月 3件	転倒	居室	居室で方向転換した際に尻もちをついた後に後頭部をトイレの床で打たれる。 ＜対策＞座らず長い時間たっている時は手の届く範囲で声掛けおこなう。
		転倒	居室	トイレの前で四つん這いになっている本氏を発見する。 ＜対策＞パンツを交換する際は靴を脱いでから下位を脱いでもらうように声掛けする。
		転倒	居室	居室より出て来られた本氏の右眼が腫れているのを発見する。 ＜対策＞覚醒されていると判断した時はフロアで飲み物を飲んでもらう。
	6月 6件	転倒	居室	ダンスを背にし座り込まれている所を発見する。 ＜対策＞他者介助に行く際は本氏の覚醒の有無を確認する。
		怪我	フロア	玉ねぎを切っている際右手第指を切られる。 ＜対策＞包丁を使用する際はスタッフ横に着く。
		転倒	居室	居室訪室すると両膝、頭を床に着け前傾で倒れている所を発見する。 ＜対策＞19時台は20分に1回は入眠の確認行う。

		欠薬	洗面所	洗面所の排水ネットに薬を1錠発見する。 ＜対策＞服薬時に口腔内を確認する。
		転落	居室	ベッドを背にして床に座っている本氏を発見する。 ＜対策＞ベッドで座っている事があるのでこまめに巡回する。
		転倒	居室	居室訪室するとベッド横の床に長座位にて座っている所を発見する。 ＜対策＞センサー購入検討。

・研 修

【O J T ・内部研修】			
5月20日	・防災訓練（毎月実施）	台所より夜間出火想定での初期動作訓練	9名参加
5月20日	・感染症（新型コロナウイルス）の対応に関する研修、訓練		4名参加
6月19日	・災害避難時の対応に関する研修・訓練（水害）		3名参加
6月19日	・全体避難訓練	夜間3階台所より出火想定での避難訓練	8名参加
【研修等受け入れ】			
なし			

・地域交流等

【介護事業者連絡協議会・グループホーム部会など】			
5月 5日	○	はびきの市民フェスティバル	
6月 15日	○	社会福祉協議会 きらプロ受け入れ体験談	
6月 19日	○	まちの保健室 「認知症講座、スクエアステップ」	
6月 24日	○	ふれあいネット雅 地域福祉推進チーム会議	

・苦情、要望など

6月24日	外部評価より（期待したい内容を要約して抜粋）その他別紙参照
○長年培った認知症ケアの強みを生かし、地域への啓発活動をさらに広げ、地域からより頼られる事業所となることが期待されます。	
○介護現場の人員不足は大きな課題ですが、早期に安定した体制が整うことを願っています。また、家族や地域からいただく評価に自信を持ち、皆さんが目指す認知症ケアの実現に向けて、創意工夫を重ねながら一丸となって取り組み続けてほしいと期待しています。	

・その他

【職員入退職・異動状況】			
5月	入職	40代女性1名	50代女性1名
5月	退職	40代女性1名	
【介護相談員】			
5月11日	3名訪問		
6月8日	2名訪問		

＜みやび＞ご本人の意向など確認するために「エンディングノート」というものがありますが、これについて、皆様はどう考えているかお聞きしたい。

＜意見＞羽曳野市には「マイノート」という名称であります。とても書きやすい内容となっています。

＜みやび＞羽曳野市内で「マイノート」はどの程度浸透しているのでしょうか

＜意見＞包括から、いきいき 100 歳体操や認知症サポーター養成講座などの場で案内はさせていただいていますが、知っている方のほうが少ないのではないのでしょうか。

＜意見＞（私の知っている方で）70 代くらいの方で、毎年誕生日に書き換えている方がいらっしゃいますが、80 代になると内容がわからないなど、書けない所が出て来る方がいます。90 代以上になると、書く事をすすめると、死ぬのを待っているのかと感情的になる方がいるなど、書く事に関しては難しい現状があります。

＜みやび＞看取り対応させていただいた際、今まで 2 名の方が元気な時に最期の意向を口頭で、家族様が本人に確認できていたケースがあった。そういったケースは稀で、ほとんどのケースが看取り時期になった時にはじめてどうするか、本人に確認できる状態ではないので、家族様が考える事になります。そういった場合、家族様間で意見が違う時があるなど、中々決断できないので、事前に話あっていれば（可能であれば、本人が元気な内に）、スムーズに意向確認ができると考えます。

＜意見＞家族の中に医療や介護関係者がいれば、自分の親に対して、マイノートでなくても将来、そうになった時にどうしたいか、誰に連絡したら良いかなどわかるようにしておいて欲しいと遠慮なく言うてくる。

＜意見＞ACP（アドバンスケアプランニング）というものがあるのですが、これは人生会議とも呼ばれ、人生の最終段階にどのような医療やケアを希望するのか、医療・介護を受ける本人の意思決定をサポートする取り組みです。この中では、本人の意向を書くだけではなく、話しする必要があります。本人の意向を書いてあったとしても、家族がそんな事本人から聞いていないといった事を防ぐためです。

＜みやび＞一般の方は、「死」に対して、悪いイメージがあるのでは。

＜意見＞一般の方は「死」に対して、否定的なイメージを持ちますが、医療、介護職の方は肯定的なイメージを持つ、専門職ならではの感覚ではないでしょうか。

＜みやび＞入居されている方の中には、それ以外で宗教観的な考えの方もいらっしゃいます。

＜意見＞本人や家族の意向についてですが、事前に確認し、その時は延命を望んでいなかったとしても、いざ本人が苦しんでいる姿を見て、家族の気持ちが変わるケースがありました。そういった事もあるので、難しいと考えます。事前の確認だけで進めていくのではなく、定期的に意向の確認をする必要があるのでは。

＜意見＞終末期の意向の確認といった形ではなく、「これができなくなったら・・・」という形で聞き取りをされている Dr がいます。例えば「娘の事がわからなくなったら・・・」や「ごはんを食べられなくなったら」など3つぐらい挙げてもらい、その中で特に大事なことをひとつ選んでもらうなどの方法がありました。

＜意見＞家族にとってどの選択をしたとしても、「本当に良かったのか」と後悔してしまうことはあると思います。けれど、後悔は失敗の証ではなく、むしろ愛情の証です。当時の状況の中で、最善を尽くして選択したのではないのでしょうか。大切なのは、選択の「正しさ」を探すことではなく、その選択に込められた「意味」に目を向けることだと思います。

＜意見＞マイノート（エンディングノート）は、本人の「好きなこと」や「やりたいこと」を実現するためだけのものではなく、家族がその思いや価値観を知ることができて良かった、と感じられることにこそ意義があるのかもしれない。

＜みやび＞貴重なご意見を多数いただき、ありがとうございました。グループホームでの看取りについて考える中で、エンディングノート（羽曳野市では「マイノート」）の活用が重要ではないかと思い、今回お話しさせていただきました。入居されている方は認知症の方で、入居後に本人の意向を聞き取ることは難しいです。そのため、元気なうちに意思を確認し、さらにご家族も含めて定期的に話し合う機会を設ける必要性を改めて感じました。記入や聞き取りには課題もありますが、今後の取り組みの参考として活かしていきたいと考えます。

次回開催予定 令和8年 9月 28日（月） 14:00～15:00 開催予定